

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	第一薬科大学
設置者名	学校法人 都築学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
薬学部	薬学科・漢方薬学科 (旧課程)	夜・通信	-	-	20	20	19	-
	薬学科・漢方薬学科 (新課程①)	夜・通信			21	21	19	-
	薬学科・漢方薬学科 (新課程②)	夜・通信			21	21	19	-
	薬科学科 (医療データサイエンスコース旧課程)	夜・通信			13	13	13	-
	薬科学科 (医療データサイエンスコース新課程)	夜・通信			13	13	13	-
	薬科学科 (コスメ&ヘルスケアマネジメントコース旧課程)	夜・通信			13	13	13	-
	薬科学科 (コスメ&ヘルスケアマネジメントコース新課程)	夜・通信			13	13	13	-
看護学部	看護学科	夜・通信		13	-	13	13	-
<p>(備考)</p> <p>1) 薬学部薬学科及び漢方薬学科は令和6年度及び8年度に教育課程を改訂した(1年次は新課程②、2-3年次は新課程①、4-6年次は旧課程)。計上した授業科目名は同じであるが、単位数の変更があるため、課程ごとに記載した。</p> <p>2) 薬学部薬科学科は令和8年度に教育課程を改訂した(1年次は新課程、2-4年次は旧課程)。コースのみで履修できる科目を計上したため、コースごと、課程ごとに記載した。</p>								

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学HP「情報の公表」⇒「シラバス・カリキュラムマップ」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) なし

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	第一薬科大学
設置者名	学校法人 都築学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学HP「情報の公表」⇒「法人役員等」
<https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/officer/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社取締役	R6.6.23 ~ 令和11年度 定時評議員 会終結の時 まで	法人の運営体制の チェック機能
非常勤	神職		法人の運営体制の チェック機能
(備考)			

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	第一薬科大学
設置者名	学校法人 都築学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ①前年度5月から教務委員会・自己点検・評価委員会でカリキュラムの見直し・修正を検討。 ②教授会でカリキュラム案を決定し、学長に諮問。 ③決定したカリキュラムをもとに科目担当教員を決定し、前年度3月までにシラバスを作成。 ④前年度3月に教務委員会でシラバスを審議し、必要に応じて修正する。 ⑤年度当初に学内システムにより学生に提示するとともに、大学HPに掲載・公表する。	
授業計画書の公表方法	大学HP「情報の公表」⇒「シラバス・カリキュラムマップ」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- ①評価方法は、授業科目の特性に応じ、定期試験単独・授業態度（発表内容）・レポート及び試験の併用等に分かれる。試験以外の評価については、ルーブリック評価を取り入れ、客観的に実施している。
- ②授業科目ごとにシラバスに記載の評価方法により、科目担当教員が評価を実施する。履修規程第15条及び16条に則り、単位の認定及びGP付与を行う。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【履修規程第16条】学業成績は点数をもって行うとともに、下表の標語及びグレード・ポイント（以下「GP」という。）をもって表すものとする。

標語	点数	GP
秀	100～90点	4
優	89～80点	3
良	79～70点	2
可	69～60点	1
不可	59点以下	0

- 2 可以上を合格とし、不可を不合格とする。
- 3 学力を総合的に評価する指標として、グレード・ポイント・アベレージ（以下「GPA」という。）を使用する。
各履修科目のGPに、科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAとなる。ただし、自由科目は評価にかかわらずGPAの算出対象外とする。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学HP「情報の公表」⇒「学則・履修規程」⇒「履修規程」
<https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/takingcourses/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は以下のとおり。

薬学部薬学科、漢方薬学科：

第一薬科大学薬学部薬学科および漢方薬学科は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、本学の教育課程を修得したうえで、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与します。また、多職種と連携しながら、患者中心の医療を提供する能力を持ち、将来にわたって継続して自己研鑽できる人材を輩出します。

- ① 自然や人間・社会に対する深い洞察力を持ち、人と環境の健全性を一体として捉える視点を備えた幅広い教養と人間性を培う能力（薬学科、漢方薬学科）
- ② 変わりゆく社会や地域へ柔軟に対応する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ③ 医療情報の解析において人工知能(AI)やデータサイエンスに関する基礎的理解に基づいて、医療の質向上に資する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ④ 高度な専門知識を修得し、生涯にわたって自己研鑽を続ける能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑤ 患者・生活者のニーズに応じた薬物療法の選択と管理を行い、適切な薬学的介入を提供する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑥ 社会・集団における健康の維持・増進、および感染症予防を科学する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑦ 多職種連携を推進する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑧ 科学的探究に基づく課題の発見とそれを解決する能力、および自主的かつ能動的に探究する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑨ コスメティクスや健康科学に対する広範な理解を深め、それに基づいて効果的なケアと支援を提供する能力（薬学科）
- ⑩ 薬用植物に関する理解を深め、漢方古典および科学的知見に基づいて漢方処方解析し、漢方調剤を実践する能力（漢方薬学科）

薬学部薬科学科：

第一薬科大学薬学部薬科学科（以下「本学科」）は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、本学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を身につけた学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。

- ① 医療・ヘルスケアおよびコスメティクス分野に関わる専門職としての社会的責任を理解し、高い倫理観をもって主体的に行動できる態度を身につけている。
- ② 薬学を基盤として、ヘルスケア・コスメティクス科学、データサイエンス、ヘルスケアマネジメントおよび創薬に関する基礎的知識と技能を体系的に修得し、科学的根拠に基づいて実務や企画、分析等に活用できる。
- ③ 医療・ヘルスケア・コスメティクス分野における多様な現場や産業領域において、専門性の異なる人材と協働し、適切なコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる実践力を有している。
- ④アントレプレナーシップに関する基礎的理解を有し、スタートアップを含む新規価値創出の基本概念を説明できる基礎リテラシーを身につけている。
- ⑤ 学際的かつ実践的な学修を通じて、社会や医療の課題を自ら発見し、医療データや科学的根拠に基づいて考察・提案を行うとともに、生涯にわたり自己研鑽を継続する姿勢を身につけている。

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

看護学部看護学科：

看護学部は、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢に対応し、看護専門職者として人々の健康を支援するために、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対し学士（看護学）の学位を授与します。

①知識・態度

幅広い教養と看護の専門的知識を基盤に看護の責任と役割および自律性を認識し、看護職者として職業倫理に基づく良識ある看護を実践することができる。

②技能

あらゆる健康レベルの看護対象を理解し、薬物療法に関する正しい知識を用いて、科学的根拠に基づく基礎的な看護を実践することができる。

③保健医療福祉活動

多様な看護の場において多職種と連携・協働し、地域の保健・医療・福祉の課題に貢献することができる。

④調整力

看護の専門性と役割を認識した調整力を発揮するためのリーダー的能力の素地を身に付けている。

⑤自己研鑽

専門職業人として、医療の進歩や社会の動向を踏まえ、看護実践能力向上のために継続的に研鑽する基礎的能力を身に付けている。

卒業判定については、上記ディプロマポリシーを満たしていること及び卒業要件単位数を修得していることを個別に判断し、教授会で審議。結果を学長に諮問、学長の了承を得て、学位授与者を認定することで実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」
<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/>

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「教育目標・研究目標」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/educational-goal/ ）
（概要） 教育目標： <u>薬学科</u> ①「惻隠の情」を持つ薬剤師の養成 ②実践的能力を持つ薬剤師の養成 ③創造的な薬剤師の養成 ④薬の専門家として医療の各分野に対応できる知識・技能・態度と豊かな人間性、倫理観を備えた実践能力の高い薬剤師の育成 <u>漢方薬学科</u> ①「惻隠の情」を持つ薬剤師の養成 ②実践的能力を持つ薬剤師の養成 ③創造的な薬剤師の養成 ④薬の専門家として医療の各分野に対応できる知識・技能・態度と豊かな人間性、倫理観を備えるとともに、日本独自の伝統医学である漢方に精通した実践能力の高い薬剤師の育成 <u>薬科学科</u> ①薬学の知見を活かし、データサイエンス及び医療ビジネスの領域において高度な専門的能力を発揮できる人材の養成 ②自己研鑽に努め向上意欲の高い人材の養成 ③薬学・医療の各分野に対応できる知識・技能・態度と豊かな人間性、倫理観を備えた人材の養成 研究目標： <u>学科共通</u> ①個性と創造性のある研究の推進 自由な発想に基づく独創的な学術研究を進展させ、医療および薬学分野における高度な専門知識・技術・技能の発展に貢献する。 ②基礎から応用に至るまでの研究推進 多様な社会からの要請に基づく医療および薬学分野における基礎的研究および臨床応用研究を推進し、医療・福祉の増進に貢献する。 ③地域社会や国際交流を視野においた研究の推進 地域社会や国際社会からの要請に応えるために、国内外の医療機関、研究機関と協同し学術連携、人的交流を通じて研究を推進し、医療および薬学の進展に貢献する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） <u>薬学部薬学科、漢方薬学科</u> ： 第一薬科大学薬学部薬学科および漢方薬学科は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、本学の教育課程を修得したうえで、以下の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与します。また、多職種と連携しながら、患者中心の医療を提供する能力を持ち、将来にわたって継続して自己研鑽できる人材を輩出します。

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

- ① 自然や人間・社会に対する深い洞察力を持ち、人と環境の健全性を一体として捉える視点を備えた幅広い教養と人間性を培う能力（薬学科、漢方薬学科）
- ② 変わりゆく社会や地域へ柔軟に対応する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ③ 医療情報の解析において人工知能(AI) やデータサイエンスに関する基礎的理解に基づいて、医療の質向上に資する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ④ 高度な専門知識を修得し、生涯にわたって自己研鑽を続ける能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑤ 患者・生活者のニーズに応じた薬物療法の選択と管理を行い、適切な薬学的介入を提供する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑥ 社会・集団における健康の維持・増進、および感染症予防を科学する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑦ 多職種連携を推進する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑧ 科学的探究に基づく課題の発見とそれを解決する能力、および自主的かつ能動的に探究する能力（薬学科、漢方薬学科）
- ⑨ コスメティクスや健康科学に対する広範な理解を深め、それに基づいて効果的なケアと支援を提供する能力（薬学科）
- ⑩ 薬用植物に関する理解を深め、漢方古典および科学的知見に基づいて漢方処方を解析し、漢方調剤を実践する能力（漢方薬学科）

薬学部薬科学科：

第一薬科大学薬学部薬科学科（以下「本学科」）は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、本学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を身につけた学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。

- ① 医療・ヘルスケアおよびコスメティクス分野に関わる専門職としての社会的責任を理解し、高い倫理観をもって主体的に行動できる態度を身につけている。
- ② 薬学を基盤として、ヘルスケア・コスメティクス科学、データサイエンス、ヘルスケアマネジメントおよび創薬に関する基礎的知識と技能を体系的に修得し、科学的根拠に基づいて実務や企画、分析等に应用できる。
- ③ 医療・ヘルスケア・コスメティクス分野における多様な現場や産業領域において、専門性の異なる人材と協働し、適切なコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる実践力を有している。
- ④アントレプレナーシップに関する基礎的理解を有し、スタートアップを含む新規価値創出の基本概念を説明できる基礎リテラシーを身につけている。
- ⑤ 学際的かつ実践的な学修を通じて、社会や医療の課題を自ら発見し、医療データや科学的根拠に基づいて考察・提案を行うとともに、生涯にわたり自己研鑽を継続する姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

薬学部薬学科、漢方薬学科：

第一薬科大学薬学部薬学科および漢方薬学科は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に準拠しつつ、ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる能力を修得するために以下の方針で教育課程を編成します。

- ① 基本教養と社会対応能力の育成（関連DP：①、②）

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

自然科学、外国語などの教養科目を通じてコミュニケーション能力や自己表現能力を涵養します。人、社会、環境を相互に関連づけて理解する科目を配置し、倫理観や多様な価値観への理解を深めるとともに、変化する社会や地域に対応する能力を育成します。

評価方法：プレゼンテーション、ピア評価、筆記試験、レポート

② デジタル技術および医療情報の分析能力の育成（関連 DP：③）

医療情報の特性および社会的背景を理解し、デジタル技術の活用を適切に判断できる基礎的能力を養成するため、情報処理およびデータ活用に関する科目を配置します。これにより、学生はデジタル技術の基礎知識と医療データの分析能力を身につけます。

評価方法：演習の成果物、筆記試験、レポート

③ 高度専門知識の修得と生涯学習の意識を醸成する教育（関連 DP：④）

高度な薬学の知識を身につけるために、1年次から4年次の終了までに薬学基礎、衛生薬学、医療薬学を体系的に学修できる講義や演習科目を設定します。また、「科目横断演習」、「科目複合演習」、「薬学総合演習」等の演習科目を通じて、生涯にわたる学修の意識を醸成します。

評価方法：筆記試験、レポート

④ 患者中心の医療提供と社会健康を推進する能力の育成（関連 DP：⑤、⑥）

患者の状況に敬意を払い、ヒューマンズ・医療倫理の観点から健康を維持・増進するための講義や実習を設定します。4年次から5年次にかけての「事前学習」と「実務実習」を通じて、理論と実践の統合を図り、社会や集団の健康を維持・増進するための実践的な医療提供スキルを習得する機会を提供します。

評価方法：シミュレーション評価、ポートフォリオ評価、ピア評価、自己評価、筆記試験、レポート

⑤ 多職種連携を推進する能力の育成（関連 DP：⑦）

様々な医療専門職と協力し、総合的な医療サポートを実現するための講義を設定します。4年次の「臨床薬学」、6年次の「チーム医療概論」および「チーム医療特論」等により、医師や看護師など他の専門職との連携に重点を置きます。これらの科目を通じて、学生は多職種連携の重要性とその方法を理解し、実践できる能力を身につけます。

評価方法：シミュレーション評価、筆記試験、レポート

⑥ 科学的探究と能動的学修を醸成する教育（関連 DP：⑧）

3年次後期から6年次前期の「卒業研究（導入・基礎・実践・論考）」等を通じて、薬学および臨床薬学に関する課題の発見や解決能力を醸成します。

評価方法：ピア評価、自己評価、プレゼンテーション、卒業論文、レポート

⑦ コスメティクスおよび健康科学に関する知識の育成（関連 DP：⑨）

コスメティクスおよび健康科学等に関する知識と技術の育成を目的とし、多面的に支援できる能力を身につける講義を設定します。1年次から6年次にかけて、コスメティクスおよび健康科学等に関する本学独自科目を設定し、これらの知識と技術を育成します。

評価方法：筆記試験、レポート

⑧ 漢方薬学の深い理解と応用力を醸成する教育（関連 DP：⑩）

漢方薬の適切な使用と調剤過程における専門的判断力を養成するための講義や演習を設定します。1年次から6年次にかけて、薬用植物、生薬および漢方処方等に関する基礎から応用までの本学独自科目を通じて、薬用植物や漢方薬学に関する深い理解、漢方処方の解析能力および漢方調剤の実践能力を養成します。また、漢方古典および科学的知見に基づく漢方薬の適用方法を学び、現代医療における漢方の役割と効果的な漢方療法の実践能力を高めます。

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

評価方法：鑑定試験、筆記試験、レポート

DPへの到達度は、各学年の進級時に「DP修得度アセスメント表」を用いて総合的に評価します。また、教職員向けのFD (Faculty Development) 研修会やワークショップを定期的実施し、教育の質・内容の進化・改善を行います。

薬科学科：

本学科は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」およびディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針により教育課程を編成・実施します。

- ① 薬学を基盤とした専門職教育として、自然科学および薬学の基礎科目を低年次に配置し、医療・ヘルスケア分野への理解の基礎を形成します。中年次以降には、ヘルスケア科学、コスメティクス科学、データサイエンスおよび医療・ヘルスケアマネジメントに関する専門科目を体系的かつ段階的に配置し、知識と技能の深化を図ります（関連 DP: ①、②）。
- ② 社会的要請や産業構造の変化に対応できる人材を育成するため、倫理・法規、データ活用、創薬に関わる基礎的視点、医療・ヘルスケアマネジメント、コスメティクス科学等の科目を相互に関連づけて配置し、専門知識を実践的に活用する判断力および応用力を養成します（関連 DP: ②）。
- ③ 実験・実習、演習科目、プロジェクト型学修等を通じて、課題発見力および課題解決力を育成します。理論と実践を往還させる能動的学修を重視し、データ分析、企画立案、プレゼンテーション等の実践的能力を高めます（関連 DP: ③、⑤）。
- ④ アントレプレナーシップ概論の学修を通じて、スタートアップを含む新規価値創出の基本的枠組みについて理解を深め、社会課題や産業ニーズを踏まえた社会実装の視点から構想する力および挑戦的に行動するための基礎的能力を育成します（関連 DP: ④）。
- ⑤ インターンシップや課題解決型学修を通じて、医療・ヘルスケア・コスメティクス分野に関わる多様な専門職や産業界との接点を設け、協働する力および実践的な対人コミュニケーション能力を育成します（関連 DP: ③、⑤）。

教育課程の内容および履修体系については、学修成果の点検・評価を定期的実施し、内部質保証の仕組みに基づいて継続的な改善を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

薬学科、漢方薬学科：

第一薬科大学は、本学の建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、「人々に信頼される薬の専門家」として、国内外の医療の発展とチーム医療に求められる多職種連携を実践し、社会に貢献できる医療人の育成を目標としています。その上で、薬剤師に求められる知識・技能を勉強したいと強い意志を持っている人を求めています。

- ① 高等学校卒業程度の人文・社会・自然科学、外国語などの基礎学力を幅広く修得しており、特に薬学を学ぶために必要な理数系科目の基礎学力を身に付けている。（関連 DP: ①）
 - ② 思いやりと協調性をもち、患者や医療に携わる関係者および地域の人々と適切にコミュニケーションができる素養を持っている。（関連 DP: ⑤⑥⑦）
 - ③ 将来にわたって薬学を学ぶ姿勢と探究心を持ち、薬学および医療の進歩と発展に貢献したいという意欲を持っている。（関連 DP: ②③④⑧）
- ①～③に加え、薬学科では以下のような人を求めています。
- ・薬学の専門知識、技能を学び、医療人としての適切な能力を身につけ、医療や臨床現場

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

において人々の健康増進・維持に貢献したいという意欲を持っている。（関連 DP;⑨）

①～③に加え、漢方薬学科では以下のような人を求めています。

・漢方に関わる専門知識や技能を学び、医療の現場で実践し、人々の健康増進・維持に貢献したいという意欲を持っている。（関連 DP;⑩）

薬科学科：

第一薬科大学は、本学の建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、医療データを駆使した医療科学分野または化粧品やヘルスケアなどのウェルネス分野に、国内外を通じて貢献できる人材の育成を目標としています。その上で、データサイエンス、または医薬品、化粧品、ヘルスケア、公衆衛生に関する知識や経験を習得したいという強い意志を持っている人を求めています。

- ① 高等学校卒業程度の人文・社会・自然科学、外国語などの基礎学力を修得している。
- ② 物事を論理的に考察し、データを用いて課題解決を図ることができる素養を持っている。
- ③ 思いやりと協調性をもち、自分の考えを的確に表現し、適切なコミュニケーションができる素養を持っている。
- ④ 人々の健康と美を維持することを通じて、社会に貢献しようとする志を有している。

学部等名 看護学部

教育研究上の目的（公表方法：大学 HP「情報の公表」⇒「教育目標・研究目標」
<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/educational-goal/>）

（概要）

教育理念：

本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を基本とし、看護学部は高い倫理観と惻隱の情を持った豊かな人間性を育み、看護におけるリーダー的素地と専門職業人としての基盤を備え、看護の発展及び人びとの保健医療福祉の向上に貢献する実践能力を有した看護職を育成する。

教育目的：

本学部の教育理念の実現を目指し、豊かな人間性を培い、専門的知識・技術および高い論理的判断力を身に付け、変動する社会の中で看護職としての役割と機能を認識し、広く社会に貢献できる実践的能力を備えた看護専門職の育成を目的とする。

教育目標：

- ① リーダーシップと「惻隱の情」を持つ専門職業人の養成
- ② 根拠に基づいて基礎的な看護を実践する能力
- ③ 多様な看護の場で多職種や地域と連携・協働する能力
- ④ 薬剤による治療や予防を看護の視点で捉える強化された能力

研究目標：

①個性と創造性のある研究の推進

自由な発想に基づく独創的な学術研究を進展させ、医療および薬学分野における高度な専門知識・技術・技能の発展に貢献する。

②基礎から応用に至るまでの研究推進

多様な社会からの要請に基づく医療および薬学分野における基礎的研究および臨床応用研究を推進し、医療・福祉の増進に貢献する。

③地域社会や国際交流を視野においた研究の推進

地域社会や国際社会からの要請に応えるために、国内外の医療機関、研究機関と協同し学術連携、人的交流を通じて研究を推進し、医療および薬学の進展に貢献する。

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

看護学部は、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢に対し、看護専門職者として人々の健康を支援するために、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対し学士（看護学）の学位を授与します。

①知識・態度

幅広い教養と看護の専門的知識を基盤に看護の責任と役割および自律性を認識し、看護職者として職業倫理に基づく良識ある看護を実践することができる。

②技能

あらゆる健康レベルの看護対象を理解し、薬物療法に関する正しい知識を用いて、科学的根拠に基づく基礎的な看護を実践することができる。

③保健医療福祉活動

多様な看護の場において多職種と連携・協働し、地域の保健・医療・福祉の課題に貢献することができる。

④調整力

看護の専門性と役割を認識した調整力を発揮するためのリーダー的能力の素地を身に付けている。

⑤自己研鑽

専門職業人として、医療の進歩や社会の動向を踏まえ、看護実践能力向上のために継続的に研鑽する基礎的能力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

第一薬科大学（以下「本学」等）は、本学の建学の精神「個性の伸展による人生錬磨」を基本理念とし、以下の方針で教育課程を編成します。これら教育課程の実施にあたっては学生の能動的学修を促す授業を導入します。教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

①豊かな人間性と幅広い教養とリーダーシップ能力の素地を培うための教養・基礎分野の科目を配置する。

②看護の対象としての人間の健康と疾病を理解し、根拠に基づいた看護実践能力を育成するために専門支持分野、基礎看護学分野、専門実践分野の科目を配置する。

③看護専門職として多様な分野で多職種と連携協働する力を養うために、地域基盤教育科目、領域横断展開科目を配置する。

④看護の視点で薬物療法をとらえ専門的援助ができる能力を育成するために薬学に関する科目を配置する。

⑤将来にわたり継続的に看護を探究し、自己研鑽をしていくための基礎的能力を養うための看護統合分野の科目を配置する。

⑥保健師教育課程、助産師教育課程を履修できる選択科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「3つの方針（ポリシー）」<https://www.daiichi-cps.ac.jp/about/policy/>）

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

(概要)

看護学部は本学の建学の精神を理解し、看護を通して地域社会に貢献できる、幅広い教養と豊かな人間性のある人材を育てることを目指します。そのために、以下に示す能力、意欲、適性を持った学生を受け入れることを基本として入学者選抜を行います。

- ①看護職者への明確な目的意識をもち、看護を通して地域医療に貢献しようという意欲を持っている。
- ②専門的知識・技術の修得に必要な基礎学力を有している。
- ③多様な人とコミュニケーションをとることができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学 HP 「情報の公表」⇒「基本組織」
<https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/>

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
—	—	25人	7人	7人	3人	0人	42人
—	—	8人	8人	5人	3人	0人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		36人					38人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学HP「情報の公表」⇒「教員・業績」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/education/lab/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	183人	103人	56.3%	1058人	728人	68.8%	—人	3人
看護学部	80人	86人	107.5%	320人	293人	91.6%	—人	0人
合計	263人	189人	71.9%	1378人	1021人	74.1%	—人	3人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	126人 (100%)	1人 (0.8%)	67人 (53.2%)	58人 (46.0%)
看護学部	74人 (100%)	0人 (0%)	61人 (82.4%)	13人 (17.6%)
合計	200人 (100%)	1人 (0.5%)	128人 (64.0%)	71人 (35.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>①前年度5月から教務委員会・自己点検・評価委員会でカリキュラムの見直し・修正を検討。</p> <p>②教授会でカリキュラム案を決定し、学長に諮問。</p> <p>③決定したカリキュラムをもとに科目担当教員を決定し、前年度3月までにシラバスを作成。</p> <p>④前年度3月に教務委員会でシラバスを審議し、必要に応じて修正する。</p> <p>⑤年度当初に学内システムにより学生に提示するとともに、大学HPに掲載・公表する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学修の成果に係る評価については以下のとおり。</p> <p>①評価方法は、授業科目の特性に応じ、定期試験単独・授業態度（発表内容）・レポート及び試験の併用等に分かれる。試験以外の評価については、ルーブリック評価を取り入れ、客観的に実施している。</p> <p>②授業科目ごとにシラバスに記載の評価方法により、科目担当教員が評価を実施する。履修規程第15条及び16条に則り、単位の認定及びGP付与を行う。</p> <p>卒業の認定については以下のとおり。</p> <p>卒業判定については、上記ディプロマポリシーを満たしていること及び卒業要件単位数を修得していることを個別に判断し、教授会で審議。結果を学長に諮問、学長の了承を得て、学位授与者を認定することで実施している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	188 単位	有・無	単位
	漢方薬学科	188 単位	有・無	単位
	薬科学科	124 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学HP「情報の公表」⇒ 「校地・校舎」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/kochi/ 「施設・設備」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/facilities/

令和8年度 機関要件の更新確認申請書

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科・ 漢方薬学 科	700,000 円	300,000 円	960,000 円	初年度
		700,000 円	円	1,260,000 円	2年次以降
	薬科学科	800,000 円	300,000 円	300,000 円	初年度
		800,000 円	円	600,000 円	2年次以降
看護学部	看護学科	1,000,000 円	200,000 円	500,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教育資金として、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、地方自治体奨学金、病院・薬局等の企業奨学金等の紹介を行っている。日本学生支援機構奨学金については申込み説明会を行い、適切な選考を実施している。 大学 HP 「情報の公表」 ⇒ 「学生の修学等」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/syugaku/
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアサポート室を設置し、専属職員を配置。 学生の WEB サイトに求人票検索サイトを設け求人情報が得られるサービスを実施。 大学 HP 「在学生の皆様へ」 ⇒ 「就職支援」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/gakusei/career-support/
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 医務室・学生相談室を設置し、職員を配置。 ハラスメント相談窓口の設置、障がい学生への修学支援の実施。 大学 HP 「在学生の皆様へ」 ⇒ 「学生相談室・ハラスメント・障害学生支援」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/gakusei/counseling/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学 HP 「情報の公表」 ⇒ 「教育研究活動等の状況」 https://www.daiichi-cps.ac.jp/jouhoukoukai/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F140310110712
学校名 (〇〇大学 等)	第一薬科大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 都築学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		283人（ 181 ）人	282人（ 176 ）人	565人（ 357 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	85人	86人	
	（うち多子世帯）	（ 22人）	（ 14人）	
	第Ⅱ区分	36人	35人	
	（うち多子世帯）	（ 11人）	（ 13人）	
	第Ⅲ区分	24人	17人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	36人	34人	
	区分外（多子世帯）	102人	110人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ - ）人
合計（年間）				569人（ 358 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期	
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－人	人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	－人	人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	－人	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人	人
計	－人	人	人	人
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	－人	前半期	後半期
		人	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
G P A等が下位4分の1	一人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	一人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。